

第1回大津市総合計画等策定懇談会における委員の意見及び意見反映箇所

NO	委員の意見概略	第3期反映箇所			
		施策		取組の方向性	特に注力する取組／関連する取組又は事業
1	子どもの貧困対策には給食が重要	1	切れ目のない子育て支援	(1)子育てを支援する仕組みの充実	・学校給食費の負担軽減の検討
		7	生涯にわたる健康づくりの推進	(2)食育の推進	・学校給食を通じた食育指導の充実
2	子どもの貧困対策について。学校の中の貧困問題を別立てで考えてほしい。学校という環境下では経済格差が顕著に表れる。学用品を揃えるだけでも経済的負担が大きい。この負担を軽減し、格差を小さくしていきたい。	2	子どもを守る仕組みの充実	(3)子ども・若者の健やかな育ちの支援	・児童生徒の就学に対する経済的支援
3	大津市は全国学力テストでは低い順位にいる。市も学校教育を根本から考えてもらいたい。	3	子どもの教育の充実	(1)時代を生きる力の育成 (2)特色ある学校づくりの推進	・一人ひとりに応じたきめ細かな支援 ・子どもや地域の実情を踏まえた学校教育目標に向けた取組 ・学校の組織マネジメントの強化と教職員の資質向上など
4	高齢化に伴う一人暮らし世帯の増加、孤立に対する施策が必要	4	高齢者の福祉・介護の充実と活躍促進	(1)認知症施策の充実と地域包括ケアの推進	・地域や民間事業者と連携した見守り体制の強化
		6	地域福祉の推進と社会保障制度の安定運営	(1)地域福祉の推進	・相談を包括的に受けとめ、支援機関が連携して相談者の課題を解決するための仕組みづくり ・地域、支援機関、事業者、行政等の官民が連携する仕組みづくり
		10	地域コミュニティの維持・活性化	(1)地域コミュニティの活性化の支援	・地域のまちづくり活動に合わせた取組と支援
5	地域コミュニティについて、自治会に頼ったコミュニティを前提に考えるのではなく、従来とは異なる方式を考えることも重要 一か所に複数の自治会が存在しているため、地域内で統合的な話ができていないのが現状である。この現状をなんらかの形で変えていく必要がある。	10	地域コミュニティの維持・活性化	(1)地域コミュニティの活性化の支援 (2)市民協働の推進 (3)高校生や大学生との連携	・地域のまちづくり活動に合わせた取組と支援 ・まちづくりに主体的に取り組む人材の育成 ・高校生や大学生による地域課題解決に向けた提案事業の充実
6	大津駅前の公共用地や琵琶湖沿いの公園におけるイベントの実践例はある。今後はSNS等も活用しインバウンドの呼び込みに力を入れていきたい。	12	観光・MICEの推進	(1)「大津ならではの魅力」発信と観光誘客	・ターゲットに合わせた媒体・手法によるプロモーションの実施

NO	委員の意見概略	第3期反映箇所			
		施策		取組の方向性	特に注力する取組／関連する取組又は事業
7	景観として比良山系や棚田なども発信していきたい。京都の外国人観光客に比べて、大津市にくる観光客が少ない。観光資源の効果的なPRが必要。	12	観光・MICEの推進	(1)「大津ならではの魅力」発信と観光誘客	・ターゲットに合わせた媒体・手法によるプロモーションの実施
		23	持続可能で活力ある地域形成	(3)個性や資源を生かした地域形成	・棚田等の保全と棚田地域の振興を図るための支援
8	良い観光地が多いが、アクセスが困難。啓発を含め、自転車でアクセス可能な場所を増やしていくなどの工夫が必要。	12	観光・MICEの推進	(3)観光基盤の整備の促進	・情報提供機会の拡大
		13	まちの魅力を生かしたにぎわいの創出	(1)なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクトの推進	・官民連携によるにぎわいの創出
9	大津市には多くの文化財があるが、知名度が低い。学校では史跡を訪れる機会がなく、子どもが市の文化遺産を知らずに育っていることは、今後の発信に関わるため問題である。	16	歴史文化遺産の保存・活用	(2)歴史文化遺産の活用と魅力発信 (3)地域の歴史文化遺産の担い手づくり	・文化財鑑賞機会の提供 ・歴史文化遺産の情報発信 ・小中学生の郷土学習機会の提供
10	学校での防災対応を考える事業を計画に入れることを検討してほしい。	20	災害に強いまちづくりの推進	(2)地域防災力の向上	・学校施設における防災教育の実施
11	園児が巻き込まれた事故があったが、今後、車体が比較的重い電気自動車の利用が増えるため、ガードレール等維持更新に力を入れていただきたい。	21	安心して暮らせるまちづくりの推進	(2)交通安全の推進	・交通安全条例に基づく交通安全対策の実施
12	就職や保育園等の情報を発信し、移住者を増やすなど市外から大津市の情報にアクセスできることもDXの面では大切	23	持続可能で活力ある地域形成	(1)移住・定住の促進	・多様な媒体による情報発信
13	大津市は住民一人あたりの二酸化炭素排出量が少なく優秀な都市である。コンパクトな街であることが理由である。ハブとして重要な駅を中心に添え、今後のまちづくりを行っていくのはどうか	23	持続可能で活力ある地域形成	(3)個性や資源を生かした地域形成	・持続可能な地域づくり
14	空き家活用の施策にも防災の観点を盛り込んでいただきたい	25	住環境の整備	(2)空き家の適正管理	・空家法に基づく特定空家・管理不全空家に対する対策の実施
15	DXに関する事業者のスタートラインに差異があり、DX推進を実際の社会に落とし込むのは現状として難しい。事業の承継者が不足しているところにDXを持って行ってもうまくいかない。こうした現状をふまえた議論が必要である。 自分には関係ないと思っている人に対しても広報を行い、デバйд解消に向けてとりくんでほしい	26	商工業の振興	(2)中小企業・小規模企業者の活性化	・産業化支援統括コーディネーター等による事業者支援 ・生産性の向上に資する支援

NO	委員の意見概略	第3期反映箇所			
		施策		取組の方向性	特に注力する取組／関連する取組又は事業
16	施策16「環境意識の醸成」は、施策3「子どもの教育の充実」や施策9「生涯学習の推進」と密接に関わってくる。施策16「環境意識の醸成」を施策31「脱炭素社会の推進」、32「循環型社会の推進」に繋げていくためには、学校教育等を通じていかに関心がない人にアプローチできるかが鍵	29	脱炭素社会の推進	(3)意識・行動を変容させる仕組みづくり	・地球温暖化防止活動推進センターによる事業の推進
17	第2期実行計画では、各施策にSDGsで横串を指しているが、今回も施策間の関連性が見えるように工夫いただきたい (再掲)特に、施策16「環境意識の醸成」は施策3「子どもの教育の充実」や施策9「生涯学習の推進」と密接に関わってくる。施策16「環境意識の醸成」を施策31、32に繋げていくためには、学校教育等を通じていかに関心がない人にアプローチできるかが鍵	第2期実行計画同様、SDGsのほか、総合戦略のテーマや重点プロジェクトにおいて、分野が異なる施策を横断的に関連付けることで、施策間の関連性を明示します。			
18	少子化はとめられないことを前提に、天津市の少子化の進行を緩やかにしていく必要がある。そのために、市の魅力を向上させ、他地域から移り住んでもらうことが重要。	全施策に関連			
19	従業員の活力向上、地域の医療費削減につながる「健康経営」(会社で行う定期検診)という取組が事業者で実施されている。会社を通じた健康増進の取組も認識してほしい。	—			
20	市の情報発信も思い切った発想で考えていただきたい。広報などのアウトソーシングも活用してはどうか	—			
21	地域ごとに課題を整理し、均一の行政ではなく地域に応じた施策が必要である。 市の北部では人口は南部と同じように増えていないため、同じ施策を北部でもできるかという難しい。マンションを建てて住民を増やしても、その人口増に対応できる幼稚園や学校があるのかなど。	—			
22	「夢があふれるまち大津」というテーマが掲げられているが、施策内容から夢が溢れる大津市がイメージできるか疑問である。もう少し尖った施策があっても良い。 DX,GXよりも、出生率の減少を特に重点的な項目として、そこに新たな視点を取り入れるべきではないか。	—			
23	大津市をどのような街にしたいか、キャッチフレーズのようなものがあると良い	—			